

## 4、戊辰戦争

(略)

星 吉右エ門

双石村郷 吉祥院

高田清右エ門

四四 「慶応四年三月仙台家中白河邦親公会律征伐の砌」

白河家旧臣陣中見舞錄」

(表紙)

白河家旧臣陣中見舞錄

駿河字子孫双石儀十郎  
同 重四郎

大烟村青木政之助  
同 同 治平

山城守子孫小針発右エ門  
同 同 同 要之助

留四郎 弥助

矢吹宿 平山三郎右エ門  
佐久間与右エ門 同 同 留四郎

治兵工

矢吹御本陣 横川栄助

須乗村 酒井弥市右エ門

佐藤宇兵工平

小針孫右エ門

佐藤新兵衛

神田村 藤井太兵衛

シテ白河御着トナルヤ昔日當家白河御在中ノ旧家臣三百年  
前ノ恩ヲ忘レズ再ビ當家ヲ白河ニ迎ヘント意氣込ミソレゾ  
レ家紋ノ着キタル武具ヲ以テ身ヲ堅メ御氣嫌奉伺旁々御加  
勢スル者數多アリ即チ其ノ名ヲ錄セリ

岩瀬鎌足明神 神主

市原 新兵衛

西間木 築前守

佐藤 弥平治

中畠新田村

佐藤 長四郎

渡辺 獣兵衛

同 大四郎

同人伴 同人伴

同 太重

佐藤 弥作

同 太重

中宿村 山寺 忠太郎

大和久宿 芳賀市郎右エ門

大隅守子孫 佐藤勇右エ門

（名前は上段より下段につづく）

以上

四五 〔明治戊辰矢吹宿仙台家中白河邦親公家臣猛虎隊

組織仙台勢に加はり合戦覚〕

(表紙)

明治元年

当六月中

」

当六月中探索方御用被 仰付難有奉存諸村探索并金策方御用相勤其外御預り地所塙井浅川両御陣屋江罷出軍事御用相勤上候事

一七月中須賀川宿より成田村出兵仕候處同宿江御引揚罷成且名生子左衛門殿と御打合被成白河上野殿旧臣御引立猛虎隊長と相成人数御仕立中三春并下手渡両家共薩長勢ニ対シ候ニ付御預リ地所川又御陣屋至急ニ罷成候間所於御殿士分不残拙者儀共ニ大番組御取扱被成下候旨被仰渡且隊長付添於御玄関前

屋形様

御曹子様

御目見被 仰付尽力可仕旨品々御意有之御酒御肴頂戴被局江罷出軍事御用談判中大繼木村閔門相被御人數御引揚罷成候段下手渡迄早打ヲ以大急大急福島江引揚候様と之御沙汰ニ付右軍事方談判中空敷福島町江引揚候處夜四時ニも候哉福島人數者不申及御手前御人數壹人茂不居合町家者不殘戸ヲ閉テ人を通一夜之宿ニ差支無拠町役附馬地天明山江押登り曉十日五ツ時半頃迄戦争仕四方敵ニ

不<sup>(レ)</sup>明<sup>(レ)</sup>迎<sup>(レ)</sup>も可<sup>(レ)</sup>道<sup>(レ)</sup>様<sup>(レ)</sup>無<sup>(レ)</sup>之<sup>(レ)</sup>討<sup>(レ)</sup>死<sup>(レ)</sup>之<sup>(レ)</sup>覺<sup>(レ)</sup>悟<sup>(レ)</sup>ニ而<sup>(レ)</sup>決<sup>(レ)</sup>戰<sup>(レ)</sup>仕<sup>(レ)</sup>リ一方<sup>(レ)</sup>切<sup>(レ)</sup>破<sup>(レ)</sup>り候間夫より椎木山麓に而<sup>(レ)</sup>兵隊纏<sup>(レ)</sup>り御本陣江引揚候勘弁ニ御座候<sup>(レ)</sup>處御本陣より火之出相揚り又々敵より鐵炮頻ニ被打掛同處ニ而<sup>(レ)</sup>戰候内隊長并兵隊之者ニ討死手負等相出其他敵人數より太刀打等有之剩敵人數相增不得止事方より大場山之沢江引揚休息罷有候内又々敵人數押來り九ツ時頃右沢江鐵炮被打掛無拠峯江馳登り兵隊一統備ヲ立直戰争仕候得共敵ハ大軍身方者三ヶ度之戰ニ御座候得者身体疲無是非右横左横と散乱仕候處隊長より大声ニ而被呼返戰爭之下知有之候得共空腹ニも罷成元より兵隊者小勢ニ而<sup>(レ)</sup>迎<sup>(レ)</sup>も戰勝之見詰無之候得共又々討死之覺<sup>(レ)</sup>悟<sup>(レ)</sup>戰候<sup>(レ)</sup>處敵身方同士討相成俄ニ動搖之様子ニ而其間より切抜嶮岨所之山中ニ而兵糧之手一円相続不申方より極々空腹ニ相及<sup>(レ)</sup>其外隊長始メ手負之者有之候得者敵地ニ可止様無之諸事無量艱難辛苦仕漸之事ニ而同日夜九ツ時頃金山町江引揚食事仕明ル十一日同所藤山御固メ被仰付同處御固中大急御引揚ニ罷成同日岩沼町江一宿仕十五日御城下着仕候處直ニ原ノ町御固メ被仰付且神命下より案内筋ハ勿論小田原御宮町通り迄一円廿日余り昼夜不怠廻勤仕候且是迄

尽力仕候内六月晦日之夜為ニ官軍之拙者住宅燒捨ニ罷成家屋敷共ニ相失其外七人之家内散乱且今年八拾武才ニ罷成候老母有之候處何方江散亂仕候哉定而艱難之經營ニ可有之候間右ニ付而茂拙者儀落着處相定り次第老母計茂自分處ニ引附老母江安心為致候様仕度勘弁ニ御座候且上野殿旧臣之儀皆々同家江御預ケ罷成候由右ニ付而茂上野殿より御用人御取扱之拙者ニ御座候間前文々通尽力仕候段何卒御吟味被成下上野殿江御預ケ罷成候様乍恐此段以書附奉願上候以上

白河上野殿旧臣

矢吹宿住居

平山良之進

花押

明治元年

辰十二月

〔矢吹町本町 平山寿満文書〕

**解説 戊辰戦争に白河上野殿旧臣が猛虎隊を組織して仙台勢に加わり薩長軍と戦い各地に転戦した様子を伝えている。**

四六 「慶応四年四月矢吹宿より会津征討に付仙台藩

調達金証書」

(表紙)

「調達金〔仮綴〕」

調達金

仙藩

芝多賦三郎

一金九百五拾両

本證写之

慶応四年辰五月

右者今般伊達家兵糧方へ前書之金子調達候處相違無之候返

濟之儀者来ル五月中下ヶ渡シ可申候以上

仙台軍事局

坂本大炊印

慶応四年四月

兵長

佐藤宮内印

一金貳拾七両也

借用金子之事

兵糧奉行

戸石永之丞印

陸奥国石川郡矢吹宿

仙台用達

熊田勸十郎殿

慶応二寅五月

仙台家中北六番丁

国安彦一郎印

一金百五拾両也  
借用證

右之金子借用候處実正也返済之儀者来ル六月廿二日迄無相  
違返金可致依之ニ指入申処如件

右者今般拙者共帰藩候所太田原宿ニテ不慮之災難出来旅金  
差支定宿之儀ニ付前書之金子借用候處相違無之候返済之儀  
者國元着次第相届可申候為後日如件

石川郡矢吹宿仙台定宿

今出屋勘之助殿

遠藤功

陸奥国石川郡矢吹宿

今出屋 勘之助 殿

證書 写し

ハ国元ヨリ着次第相渡し可申候以上

仙台軍事兵長

佐藤 宮内印

一天朝ヨリ今般伊達家へ会津征討被仰付当地へ出陣致候處

國許遠隔之為ノ軍米金差支罷在當時之間手配方用達方相

頼候者也

慶応四年辰五月

兵糧方 戸石永之亟印

矢吹宿

熊田勘十郎殿

外五名へ

慶応四年辰四月

兵長

佐藤 宮内

兵糧奉行

戸石永之亟

表書金員之儀ニ付今般御相調相成候處応負債版籍奉卷之廉  
ヲ以各藩一樣藩債ニ被立下候処壬申之年ニ至り新立前之負  
債ハ公債ニ不被立下候事ニ御達ニ罷成然ルニ旧負債數百万  
も有之今日と相成候而ハ返升之道無之情実陳述仕候處御洞  
察御勘弁被下辱仕合拝謝仕候裏書ヲ以右御答仕候様御示調  
ニ付如此御座候也

石川大和殿旧一族  
陸奥国石川郡矢吹宿

熊田勘十郎殿

伊達家々扶

調達金

柴田 隆印

一金千百五拾兩也 写し

明治十年三月十四日

熊田勘十郎殿

右之金子伊達家軍事兵糧方へ調達候処相違無之候返済之儀

〔本町 熊田俊一家文書〕

四七 「慶応四年五月会津戦争に付郷夫人足議定書」

「

慶応四年

郷夫人足議定之事

」

表端書

「会津戦争ニ付」

郷夫人足議定之事

一此度矢吹宿より郷夫人足差出し候様申来候所一日ニ武人  
宛相勤候内替人間ニ会不申戰場ニ引出無難ニ相勤候而も  
一日ニ壻人前金壱両ツ、無運之者怪我請候節者扶持米五  
俵ツ、村方より一代相送り候筈若し療治不相叶即死いた  
し候節者金三拾両ツ、村方より差出候筈ニ取究申候議定  
違背致候者有之候ハ、田地取上村附合相除依之銘々連判  
議定一札如件

四八 「慶応四年九月石川郡堤村軍夫役に付村高・人口  
乍忍以書附奉申上候 石川郡  
・家数届書」

(名前は上段より下段につづく)  
(提 吉田清作家文書)

茂三郎	岩蔵	重右衛門
金蔵	常吉	元吉
与右衛門	弥平次	豊吉
清四郎	喜平	平
清右衛門	清右衛門	
長百姓	茂三郎	
組頭		
庄屋		
辰三郎		

第4編 近世

慶応四年五月  
多七兼吉  
徳次郎  
清四郎  
一人數拾六人  
清八辰吉  
一助郷夫勤高八拾壱石三斗四升  
一家數拾六軒  
堤村  
(軍夫役ニ付村高、人口、家数届書)

一人足六人又八三人

一武人

一武人

川辺村詰メ

白川郷夫

同所郷夫替リ

右之通書上申処相違無御座候以上

慶応四年九月

右村

長百姓

兼吉

組頭

清四郎

同

清右衛門

庄屋

辰三郎

印 印 印 印

軍夫  
御役所

(堤  
吉田清作家文書)